



DocAve[®] 5 -> DocAve 6

アップグレード ツール

ユーザー ガイド

The Enterprise-Class Management Platform for SharePoint Governance

目次

目次2
DocAve 5 から DocAve 6 へのアップグレードについて
アップグレード プランの作成5
前提条件
DocAve 環境要件5
DocAve 構成要件 5
全体要件6
アップグレード可能なプラン6
アップグレード不可能なプラン6
その他の注意点
アップグレード プロセスの概要
ツールの実行10
ステップ 1: 前提条件のスキャン 11
ステップ 2: Built-in データベースの SQL Server への変換12
概要
データベース変換プロセス12
ステップ 3: デバイスのアップグレード15
概要
デバイス アップグレード プロセス15
ステップ 4:プランのアップグレード 18
概要
プラン アップグレード プロセス
プランのアップグレード後の注意点22

ステップ 5: 過去データのアップグレード	23
過去データのアップグレード プロセス	23
レポート ポイント履歴データのアップグレード	23
コンプライアンス監査データのアップグレード	24
ステップ 6: データのアップグレード	27
完了	27
DocAve 5 データの DocAve 6 へのインポート	27
DocAve 5 最小単位バックアップデータのインポート	29
DocAve 5 プラットフォーム バックアップ データのインポート	30
DocAve 5 アーカイバ データのインポート	32
DocAve 5 スタブおよび BLOB データの変換	36
DocAve 5 スタブおよび BLOB を変換する 「受動的」 アプローチチョン・ション・	36
DocAve 5 スタブおよび BLOB を変換する 「能動的」 アプローチチャーク	40
DocAve 5 コネクタ スタブの変換	44
DocAve 5 ソリューション データのインポート	46
ステップ 7: DocAve 6 環境の最適化	48

DocAve 5 から DocAve 6 へのアップグレードについて

DocAve 5 から DocAve 6 へのアップグレードは主に 2 つの作業で構成されます。アップグレード ツールを使用したプラン、デバイス、履歴レポートおよび監査データのアップグレード、そして DocAve 6 コントロール パネル 内のデータ マネージャーを使用した DocAve 5 データ アップグレードです。

DocAve 5 と DocAve 6 の間では技術的・製品機能的な違いが大きいため、アップグレードの際は DocAve e アップグレード ツールが必要です。DocAve インターフェイス経由の自動アップグレードは使用できません。本 ツールを使用することにより、お使いのプランやデータをすべて DocAve 6 に正しく移行することができます。BL OB 外部化プロバイダーへの既存データおよび更新は、DocAve 6 コントロール パネルによって管理されます。

アップグレード作業中も DocAve 5 および 6 は同時に実行するため、いつでも安全なポイントまで簡単にロー ルバックすることができます。DocAve 6 がお使いの SharePoint ファームおよびデータに対する作業の準備が 整った段階で、切り替えのポイントが本ガイド内で示されます。

アップグレード作業では実行前および実行中に注意すべき重要な点がいくつかあるため、アップグレード ツールを 実行する前に本ガイドを必ずよくお読みください。

DocAve アップグレード ツールの ZIP ファイルをダウンロードする場合、以下の URL をクリックしてください。

http://download2.avepoint.com/DocAve_Upgrade_Solution_Tool_2.3.1.zip

アップグレード プランの作成

DocAve は様々な方法で展開され、様々な用途に使用されます。そのため、アップグレード ツールを実行する 前に必ずこのプランを作成する必要があります。なお、使用する製品およびお使いの環境内のデータの種類によって、アップグレードの形式が変わります。

以下のセクションでは、アップグレードの際に検討が必要な前提条件およびその他の条件を説明します。

前提条件

このツールを正しく使用してスムーズにアップグレードを実施するために、次の前提条件を確認してください。

DocAve 環境要件

- DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンがインストールされている必要があります。5.7 以前のバージョンを使用している場合、DocAve 5 コントロール パネルの更新管理からアップグレードを実行するか、 弊社技術サポートまでお問い合わせください。
- DocAve 6 が DocAve 5 と同一のファームに正しくインストールされている必要があります。詳細については、DocAve 6 インストール ガイド をご参照ください。インストールの正常性を確認するには、以下の手順に従ってください。
 - a. すべてのエージェントおよびメディア サービスが、DocAve の旧バージョンと同じ Web フロント エンドにあることを確認してください。これは、DocAve 5 プランで指定したすべての DocAve 6 エージェント グループへのプラン アップグレードのアクセスおよび作成に必要となります。
 - b. DocAve 6 モジュールにログインし、SharePoint ツリーの読み込みおよび閲覧に問題が無いことを確認してください。

DocAve 構成要件

- 1. DocAve 5 から DocAve 6 ヘレプリケーター プランおよびデバイスをアップグレードする場合、レプリケ ーター データベースが DocAve 6 内で構成されている必要があります。
- DocAve マネージャーおよび DocAve エージェントで Built-in 証明書を使用する必要があります。
 DocAve マネージャーおよび DocAve エージェントで [ユーザー定義] 証明書を使用している場合、 ツールの実行前に証明書を [Built-in] に変更し、ツールの実行後に証明書を再度 [ユーザー定義] に戻す操作が必要になります。

マネージャー構成ツールおよびエージェント構成ツールを使用して証明書を構成します。

- a. マネージャー構成ツール: DocAve コントロール サービスがインストールされている環境で、[ス タート] > [すべてのプログラム] > [Avepoint DocAve 6] > [DocAve 6 マネージャー ツール] > [マネージャー構成ツール] の順に移動します。
- b. エージェント構成ツール: DocAve エージェント サービスがインストールされているマシンで、[ス タート] > [すべてのプログラム] > [Avepoint DocAve 6] > [DocAve 6 エージェント ツール] > [エージェント構成ツール] の順に移動します。

全体要件

- 1. DocAve アップグレード ツールは、DocAve 5 コントロール サービスがインストールされているサーバー で実行します。
- 2. お使いの環境に .NET Framework 3.5 以上のバージョンがインストールされている必要があります。
- 3. このツールを実行するユーザーはローカル管理者権限を持つ必要があります。

アップグレード可能なプラン

直接アップグレードが可能な DocAve 5 プランは以下の通りです。

- コンテンツ マネージャー
- レプリケーター
- 最小単位バックアップ&リストア
- プラットフォーム バックアップ & リストア
- レポート ポイント プロファイル

アップグレード不可能なプラン

以下の製品ではアーキテクチャおよび機能が大幅に強化されているため、これらの DocAve 5 プランはユーザ ーの監督により DocAve 6 で再作成する必要があります。

• バイナリー ストア

- アーカイバ
- コネクタ
- 移行
- リーガル ホールド
- 監査マネージャー スケジュール ルール (レガシー データ対応)
- Vault

***注意:** 本アップグレード ツールは DocAve 5アーカイバ、バイナリー ストア、フロントエンド展開、デザイン マネ ージャー、ソリューション センターに対応していません。ただし、<u>ステップ 4</u>:プランのアップグレード を使用するこ とで、これらの製品のプラン設定の詳細レポートを生成することができます。 DocAve 5 プラン レポートを使用 すると、DocAve 6 で同様のプランを構成することができます。

その他の注意点

前述の必須前提条件が満たされていることを確認した上で、以下の点も検討してください。

- バックアップ & リストア ユーザーの場合、DocAve 6 SP1 プラットフォーム バックアップ & リストアの スナップショット機能を使用することを強く推奨します。お使いのハードウェア性能を最大限に活用するた めに、お使いの Windows 環境で VSS が構成されていることを確認してください。
- DocAve 5 プランを DocAve 6 にアップグレードする場合、同じデータ (レプリケーション プランやバッ クアップ プランなど) に影響を与える可能性のあるプランが 2 つあります。 競合を回避するには、 v5 イ ンターフェイスでスケジュール プランを無効にする (DocAve 5 ジョブ モニター経由で実行) か、プラン のコピー後に DocAve 6 でプランを編集することを推奨します。
- DocAve 6 ストレージ最適化製品の利用を予定している場合、BLOB プロバイダー、スタブ データベース、その他必要手順を含めた EBS/RBS 設定を構成しておくことを推奨します。詳細については、<u>h</u> <u>ttp://www.avepoint.co.jp/resources/user-guides/</u>の DocAve ストレージ最適化ユーザーガイドをご参照ください。
- DocAve 5 内に監査マネージャーのプランまたはデータがある場合は、DocAve 5 監査マネージャー データを DocAve 6 に移行して DocAve 6 でレポートを作成することができますが、プランは移行さ れません。
- アップグレード プロセスの一部に、DocAve 5 Built-in データベース (適用可能な場合) のコピーが 含まれます。そのため、ツールを使用してデータベースにアクセスし、データベースをコピーするためには、D ocAve 5 コントロール サービスを無効にする必要があります。この手順の間に実行中またはスケジュー ルされているジョブがない事を確認してください。
- アップグレード ソリューション ツールでは、SharePoint 2010 プラットフォーム用に作成した DocAve 5 プランのみアップグレードすることができます。SharePoint 2007 プラットフォーム用のプランはアップ グレードすることができません。このため、このページへの読み込みおよび表示もされません。

アップグレード プロセスの概要

DocAve アップグレードを実行するためのステップとして、まず第一に前述の前提条件が満たされていることを確認すること、アップグレード可能およびアックグレード不可のプランを検討すること、VSS 有効化または EBS / R BS の構成などのその他の検討事項を計画する必要があります。

この最初の手順の完了後、ツールを実行してアップグレードを開始することができます。DocAve アップグレードは、以下の手順で構成されます。

<u>ステップ 1: 前提条件のスキャン</u>

<u>ステップ 2: Built-in データベースの SQL Server への変換 (適用可能な場合)</u>

***注意:** この手順は Built-in データベース (通称 "Derby") を使用している DocAve 5 展開の場合のみ 必要となります。SQL サーバーを使用する DocAve 5 インストールについては、この手順は必要ありません。

<u>ステップ 3: デバイスのアップグレード</u>

<u>ステップ 4:プランのアップグレード</u>

ステップ 5: 過去データのアップグレード (適用可能な場合)

***注意:** この手順は、DocAve 5 レポート ポイントおよびコンプライアンスのデータを DocAve 6 に移行する 場合にのみ必要となります。

ステップ 6: データのアップグレード

ステップ 7: DocAve 6 環境の最適化

ツールの実行

*注意: <u>前提条件</u> セクションの通り、アップグレード ツールを実行するユーザーは、DocAve 5 コントロール サ ービスのインストール先パス (既定では …¥AvePoint¥DocAve5¥Manager¥ZeusJob¥etc) 内の vers ion ファイルに対してローカル管理者権限およびフル コントロール権限を持つ必要があります。

DocAve アップグレード ツールを実行するには、以下の手順に従ってください。

- 1. .zip パッケージから UpgradeSolution フォルダーを解凍します。
- RunUpgrade.bat ファイルを右クリックし、[管理者として実行] をクリックしてアップグレード ツール を実行します。[アップグレード ライセンス契約] ページが表示されます。
- 3. 表示されているライセンス契約をよく読んでください。続行する場合は、[同意] をクリックして規約を承認します。同意しない場合は、[キャンセル] をクリックしてアップグレードを終了します。
- 4. [同意]をクリックすると、[概要]ページが表示されます。
- 5. アップグレードするモジュールを選択します。既定では、すべてのモジュールが選択されます。アップグレードするモジュールを選択し、[次へ]をクリックして前提条件のスキャンの手順に移動します。

ステップ 1: 前提条件のスキャン

[概要] ページから [前提条件のスキャン] ページに進みます。ここでは、お使いの環境をスキャンして以下の前提条件が満たされているかどうかを確認します。

- このツールが DocAve 5 マネージャー (コントロール サービス) がインストールされているコンピュータで 動作していること
- DocAve のバージョンが 5.7.0 以上であること
- DocAve 5 コントロール サービスが停止していること

これらの前提条件のいずれかでも満たされないものがある場合は、ウィザードの次のステップに進むことができません。問題のあった前提条件を解決し、すべての前提条件で [合格] が表示されたら、 [次へ] をクリックして続行します。

ステップ 2: Built-in データベースの SQL Server への 変換

[データベースの変換] ステップでは、Built-in (Derby) DocAve 5 データベースを SQL Server DocAv e 6 データベースに変換します。SQL Server を使用してアプリケーション データベースをホスティングする Doc Ave 5 をインストールしている場合、このステップは必須ではありません。その場合、このステップはアップグレード ツール ウィザードで自動的に無効になります。

詳細については以下のセクションを参照してください。

概要

このステップでは、アップグレード ツールを使用して DocAve 5 コントロールおよびレポート データベース (Derb y データベース) を指定の SQL Server の一時コントロールおよびレポート データベースにコピーします。また、 データベース スキーマ形式を [Built-in データベース] から指定の一時コントロール・レポート データベースに変 換します。

***注意:** 一時レポート データベースは、レポート ポイントの履歴データをアップグレードする場合にのみ使用されます。

DocAve 5 一時コントロール データベースの作成後、アップグレード ツールは一時コントロール データベースか らプランおよびデバイス構成を読み取り、指定の DocAve 6 コントロール データベース内の情報を更新しま す。

重要: データベース変換のステップを実行する前に、すべての DocAve 5 コントロール サービスが停止されてい る必要があります。これにより、アップグレード ツールがコピーするデータベースに他のサービスからのアクセスがされ ない状況を確保します。

データベース変換プロセス

予想されるダウンタイム: 数分間 (データベース コピー中)

完了までの時間 (平均): 10 分間

- まず、DocAve 5 一時コントロール データベース設定を構成します。アップグレード ツールには Built-i n データベースの場所があらかじめ登録されているため、場所を問い合わせるプロンプトは表示されません。
 - a. データベース サーバー DocAve 5 一時コントロール データベースを作成する SQL Serv er の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - b. データベース名 一時コントロール データベースの名前を入力します。入力したデータベース が存在しない場合、自動的に作成されます。
 - c. 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。
 - d. [検証テスト] をクリックすると、入力した情報を確認します。テストが正常に完了すると、[テス トに成功しました] というメッセージがツール インターフェイスに表示されます。
- 2. 次に、DocAve 5 一時レポート データベース設定を構成します (必要な場合)。
 - a. コントロール データベースと同じデータベース サーバーを使用する このチェックボックスを選 択すると、一時コントロール データベース用に構成したものと同じ SQL Server および証明 書を使用します。このオプションを選択すると、一時レポート データベースには DocAve5_R eportDB2 という名前が付けられます。
 - b. データベース サーバー 一時レポート データベースを作成する SQL Server の IP アドレ スまたはホスト名を入力します。
 - c. データベース名 一時レポート データベースの名前を入力します。入力したデータベース が 存在しない場合、自動的に作成されます。
 - d. 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。
 - e. [検証テスト] をクリックすると、入力した情報を確認します。テストが正常に完了すると、[テス トに成功しました] というメッセージがツール インターフェイスに表示されます。
- 3. これらの設定を構成したら、[変換]をクリックしてこのツールを実行します。
- データベースのコピーが完了すると、コントロール サービスの開始 ポップアップ ウィンドウが表示されます。[開始] をクリックすると、Built-in コントロール データベースのバックアップ完了後 DocAve 5 コントロール サービスをただちに開始し、DocAve 5 の使用を続行することができます。[後で開始] をクリックすると、DocAve 5 コントロール サービスを後ほど手動で開始することができます。

- 5. データベースが正常に変換されると、[データベースの変換に成功しました] というメッセージがツール インターフェイスに表示されます。
- 6. [次へ] をクリックしてアップグレード プロセスの次のステップ デバイスのアップグレード に進みます。

ステップ 3: デバイスのアップグレード

デバイスのアップグレード ステップでは、DocAve 5 物理・論理デバイス ストレージ場所の情報を DocAve 6 コントロール データベースにコピーしてアップグレードします。詳細については以下のセクションを参照してください。

概要

このプロセスでは、DocAve 5 ストレージ場所を DocAve 6 で手動で作成することなく使用できるよう設定します。このツールではまた、DocAve 5 論理デバイスからストレージ ポリシーを自動生成します。アップグレード 済みの DocAve 6 プランのすべてにストレージ ポリシーを含めるには、次のステップに進む前にすべての DocA ve 5 デバイスをアップグレードする必要があります。コンテンツ マネージャーやレプリケーターなど、ストレージ デバ イスを使用しないモジュールおよびジョブをアップグレードする場合、このステップは不要です。

***注意:** ローカル パスを使用する DocAve 5 **専用** 論理デバイスは、DocAve 6 には対応しておりません。D ocAve 5 **専用** 論理デバイスを DocAve 6 論理デバイスへアップグレードする場合、**ネットシェア** 論理デバイ スとしてアップグレードされます。この場合、追加の証明書が必要となります。

DocAve 6 にアップグレードしたデバイスの命名規則は以下のとおりです。

- デバイスのアップグレードが完了すると、接尾辞 _Upgraded が DocAve 5 の元の物理・論理デバイス名に追加されます。
- 自動作成された DocAve 6 ストレージ ポリシーは以下のとおりに命名されます。
 DocAve 5 論理デバイス名_保持プロファイル名_ポリシー
- DocAve 5 論理デバイスで使用する保持プロファイルが存在しない場合、ストレージ ポリシーは次の ように命名されます: DocAve 5 論理デバイス名_ポリシー

デバイス アップグレード プロセス

予想されるダウンタイム: なし

完了までの時間(平均): 5分間(追加の情報が必要な場合)

[デバイスのアップグレード] インターフェイスでは、生成した一時コントロール データベース設定を [DocAve 5 一時コントロール データベース] エリアに表示します。ここで構成する必要のある設定は DocAve 6 コントロール データベース のみです。

- 1. 必要に応じて、以下の手順で必要な DocAve 6 コントロール データベース情報を探します。
 - a. DocAve 6 コントロール サービスがインストールされている環境にアクセスします。
 - b. [スタート] > [すべてのプログラム] > [AvePoint DocAve 6] > [DocAve 6 マネ ージャー ツール] > [マネージャー構成ツール] の順に移動します。
 - c. [マネージャー構成ツール] インターフェイスで、**[コントロール データベース設定]** タブをクリック します。このタブには、DocAve 6 コントロール データベースのデータベース サーバー、データベ ース名、認証、ユーザー名、パスワードなどの情報が表示されます。
- 2. DocAve 6 コントロール データベース設定を構成します。
 - a. データベース サーバー DocAve 6 コントロール データベースが存在している SQL Serve r の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - b. データベース名 DocAve 6 コントロール データベースの名前を入力します。
 - c. 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。
- DocAve 6 コントロール データベース設定を構成したら [次へ] をクリックして構成済みデータベースに 接続し、DocAve 5 論理デバイスを読み込みます。このインターフェイスにはアップグレードするデバイス がすべて表示されます。以下の点にご注意ください。
 - 前述のように、DocAve 5 専用デバイスは DocAve 6 ネットシェア デバイスとしてアップグレードされます。デバイスの横に アップグレード不可 と表示された場合、アクセスに証明書が必要となります。
 - 専用 デバイスのローカル パスは UNC パスに変更され、UNC パス 列に表示されます。この 列が空白である場合、この物理デバイスは DocAve 5 専用 ではないため、これらのデバイスの アカウント情報 を入力する必要はありません。
- 4. 必要に応じて、[ユーザー名] および [パスワード] を入力します。以下の点にご注意ください。
 - [**テスト**] をクリックすると、指定の物理デバイスについて入力したアカウント情報をテストします。

- [**すべてテスト**] をクリックすると、すべての適用可能な物理デバイスについて入力したアカウント 情報を同時にテストします。
- [一括] をクリックすると、表示されるポップアップ ウィンドウ上ですべてのネットシェアの ユーザー 名 および パスワード を入力します。
- 5. 設定の構成が完了したら、[アップグレード] をクリックして適用可能な DocAve 5 論理デバイスをア ップグレードします。
- 6. 適用可能な DocAve 5 論理デバイスが正常にアップグレードされると、ツール インターフェイスに表示 される状態が アップグレード済み に変わります。デバイス アップグレード レポートは "…¥UpgradeS olution¥UpgradeSolution¥report" に保存されます。
- 7. [次へ] をクリックして プランのアップグレード ステップに移動します。

ステップ 4:プランのアップグレード

プランのアップグレード ステップでは、DocAve 5 プランを DocAve 6 プランにアップグレードします。詳細については以下のセクションを参照してください。

概要

このプロセスでは、保存済みの DocAve 5 データ保護、コンテンツ マネージャー、レプリケーター プランなどを D ocAve 6 にコピー・アップグレードします。同時にレポート ポイント プロファイルもアップグレードされます (適用 可能である場合)。アップグレード済みのプランには、元々そのプランに関連付けられていたアップグレード済みの ストレージ ポリシーが関連付けられます。このステップでは、すべての DocAve プランを一度にアップグレードする 必要はありません。アップグレードツールを後で再び起動して他の DocAve 5 プランをアップグレードすることも 可能です。

DocAve 6 にアップグレードしたプランの命名規則は以下のとおりです。

- DocAve 6 の既存のプランでアップグレード済みプランと同じ名前を使用しているものが既に存在する場合、アップグレード済みプランは次のように命名されます:元のプラン名_DocAve 5 バージョン_タイムスタンプ
- DocAve 6 ににアップグレード済みプランと同じ名前を使用する既存のプランがない場合、アップグレー ド済みプランでは元の DocAve 5 プラン名が使用されます。

プラン アップグレード プロセス

予想されるダウンタイム: なし

完了までの時間 (平均): モジュール毎に 5 分間 (プランの編集が必要な場合は長くなります)

[プランのアップグレード] インターフェイスでは、生成済み一時コントロール データベース設定が [DocAve 5 一時コントロール データベース] エリアに表示され、DocAve 6 コントロール データベース設定は [DocAve 6 コントロールデータベース] エリアに表示されます。ここで構成する必要のある設定は DocAve 6 レポート データベース のみです。

1. 必要に応じて、以下の手順で必要な DocAve 6 レポート データベース情報を探します。

- a. DocAve 6 レポート サービスがインストールされている環境にアクセスします。
- b. [スタート] > [すべてのプログラム] > [AvePoint DocAve 6] > [DocAve 6 マネ ージャー ツール] > [マネージャー構成ツール] の順に移動します。
- c. マネージャー構成ツール インターフェイスで、[レポート データベース設定] タブをクリックします。このタブには、DocAve 6 レポート データベースのデータベース サーバー、データベース 名、認証、ユーザー名、パスワードなどの情報が表示されます。
- d. DocAve 6 コントロール データベースの **パスフレーズ** 情報を取得する場合、DocAve 6 マ ネージャーにログインします。
- e. **[コントロール パネル] > [システム設定] > [システム オプション] > [セキュリティ設定]** > **[セキュリティ情報] > [パスフレーズの管理]** の順に移動します。ここで DocAve コント ロール データベースのパスフレーズが表示されます。
- 2. DocAve 6 レポート データベースの設定を構成します。
 - a. データベース サーバー DocAve 6 レポート データベースが存在している SQL Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - b. データベース名 DocAve 6 レポート データベースの名前を入力します。
 - c. 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。
- 3. DocAve 6 レポート データベース設定を構成したら [次へ] をクリックして構成済みデータベースに接続し、プラン アップグレードの設定を構成します。 [プランのアップグレード] タブが表示されます。
- 【モジュールの選択】 ドロップダウン メニューからプランのアップグレードを実行するモジュールを選択し、
 【スキャン】をクリックしてプラン リストを更新します。選択したモジュールにプランがある場合はドロップダウン メニューの下の画面に表示されます。なお、プランにはこのウィンドウに表示されないものがあります。例えばコンテンツマネージャー プランは、移動元から移動先へ直接移動するのではなくエクスポート先にエクスポートされるため、ここでは表示されません。

*注意: 既定では、[アップグレード済みプランを表示する] オプションが選択されています。このオプションではアップグレード済みプランをプラン ビュー フィールドに表示します。これらのプランをプラン ビュー フィールドに表示させたくない場合は、[アップグレード済みプランを表示する] チェックボックスの選択を 外します。

5. 表示するプランについて、次の3つの状態のうちいずれかが表示されます。

- アップグレード可能 [アップグレード] ボタンをクリックすると、これらのプランを完全にアップグレードします。
- アップグレード (例外あり) これらのプランには DocAve 6 に存在しない DocAve 5 機能が 1 つ以上含まれています。この場合 DocAve 5 にログインして DocAve 6 に存在しない機能を無効にする必要があります。アップグレードを続行すればサポートされていない機能は自動的に削除されます (プランはレポートにアップグレード (例外あり) と読み込まれます)。
- アップグレード不可 DocAve 5 と DocAve 6 の機能が大きく異なるため、これらのプラン をアップグレードすることができません。

*注意: プランの隣に表示された状態をクリックすると、アップグレード (例外あり) および アップグレード不可 状態のアップグレードの推奨事項が表示されます。[OK] をクリックして プランのアップグレード インターフェイスに戻ります。

***注意:** アップグレード ソリューション ツールでは、SharePoint 2010 プラットフォーム用に作成した DocAve 5 プランのみアップグレードすることができます。SharePoint 2007 プラットフォーム用のプラ ンはアップグレードすることができません。このため、このページへの読み込みおよび表示もされません。

6. 必要な場合は、スキャン済みプランのレポートを生成することができます。 DocAve 6 で特定の DocA ve 5 プランを再度作成する際にこのレポートが役に立つ場合があります。

***注意:** プランの詳細マッピング情報を表示するには、スキャン済みの DocAve 5 レプリケーター プラン名をクリックします。

- 詳細レポートの生成 このリンクをクリックすると、ポップアップ ウィンドウが表示されます。[参照] をクリックしてローカル パスに移動し、すべての圧縮済みの詳細レポートを含む ZIP ファイルの名前を指定します。[保存] をクリックして構成を保存した後、[生成] をクリックして指定したローカル パスに ZIP ファイルを生成します。ZIP ファイルが指定の場所に保存されると、ツール インターフェイスに [レポートのダウンロードに成功しました。] と表示されます。
- スキャンレポートのダウンロード スキャン済みのプランの情報を XLS/XLSX ファイル形式 で保存し、指定したパスにダウンロードします。スキャンレポートでは、スキャン済みプランについ て以下の情報を表示することができます。
 - 。 **モジュール** スキャン済み DocAve 5 プランのモジュールです。
 - 。 プラン名 スキャン済み DocAve 5 プランの名前です。
 - 状態 スキャン済み DocAve 5 プランのアップグレードの状態です。

- ・ 最終アップグレード時刻 スキャン済み DocAve 5 プランを最後にアップグレードした時刻です。
- 。 **ファーム名** スキャン済み DocAve 5 プランのファーム名です。
- その他の列 DocAve 5 プランの状態が アップグレード不可 / アップグレード (例外あり)となる原因が示されます。
- 必要なプラン設定の構成を完了したら、[アップグレード] をクリックして、アップグレード可能 / アップ グレード (例外あり) 状態の DocAve 5 プランをアップグレードします。 DocAve 5 プランが正常にア ップグレードされると、ツール インターフェイスの 状態 列に アップグレード済み または アップグレード (例外あり) と表示されます。
- 8. アップグレードするすべてのモジュールのプランについて、手順4~7を繰り返します。
- 9. 必要に応じて、[アップグレード履歴] タブに切り替えてアップグレード プランのアップグレード履歴をレビ ューすることもできます。
 - **モジュール** アップグレード済み DocAve 5 プランのモジュールです。
 - プラン名 アップグレード済み DocAve 5 プランの名前です。
 - ファーム名 アップグレード済み DocAve 5 プランのファーム名です。
 - アップグレード状態 アップグレード済み DocAve 5 プランのアップグレードの状態です。
 - 最終アップグレード時刻 アップグレード済み DocAve 5 プランを最後にアップグレードした
 時刻です。
- 10.アップグレード済みプランを選択した後、**[ダウンロード]** をクリックしてアップグレード済みプランのアップグ レード履歴を XLS/XLSX ファイル形式で保存し、指定したパスにダウンロードします。
- 11.すべての適用可能な DocAve 5 プランが正常にアップグレードされたら、[次へ] をクリックして 過去 データのアップグレード のステップに進みます。

プランのアップグレード後の注意点

DocAve 5 プランを DocAve 6 に正しくアップグレードできたら、以下の手順を実行することを推奨します。

- DocAve 6 にログインし、すべてのプランについて範囲およびストレージ ポリシーが正しいことを確認し ます。
- DocAve 5 プランを DocAve 6にアップグレードした後、v5 プランと v6 プランで同じデータをバックア ップする可能性があります。この状況を回避するため、v5 プランでスケジュールを無効にするか、プランのコピー後に DocAve 6 プランを編集して スケジュールなし に変更します。
- DocAve 6 では、アップグレード済み DocAve 5 レプリケーター プランはすべて新規作成されたプラン と見なされます。そのため、アップグレード済みプランの最初の DocAve 6 レプリケーション ジョブで、指 定期間内に作成および編集されたコンテンツのみをレプリケートさせるよう参照時間設定を構成するこ とを推奨します。この構成が行われていない場合、DocAve 6 はアップグレード済みプランに対して完 全レプリケーション ジョブを実行します。これは時間がかかるだけでなく、すべてのデータが DocAve 5 で既にレプリケートされているため必要の無い操作となります。

ステップ 5: 過去データのアップグレード

過去データのアップグレード ステップでは、DocAve 5 レポート ポイントで収集した過去データおよび DocAve 5 コンプライアンス データを DocAve 6 レポート データベースにアップグレードします。これにより、DocAve 5 の過去データに対しても DocAve 6 レポートを実行することができるようになります。詳細については以下の セクションを参照してください。

過去データのアップグレード プロセス

予想されるダウンタイム: なし

完了までの時間 (平均): 15 分間

[過去プランのアップグレード] インターフェイスでは、生成済み一時コントロール データベース設定が [DocA ve 5 一時コントロール データベース] エリアに表示され、DocAve 6 レポート データベース設定は [DocA ve 6 レポート データベース] エリアに表示されます。ここで構成する必要のある設定は DocAve 6 レポート ポイント データベース のみです。

レポート ポイント履歴データのアップグレード

- 1. モジュールを選択してください ドロップダウン リストから [レポート ポイント履歴データ] を選択しま す。該当するチェックボックスを選択して、ストレージ トレンド レポートおよび サイト コレクションの読 み込み時間レポート 用に収集した DocAve 5 レポート ポイント履歴データをアップグレードします。
- [過去データのアップグレード] インターフェイスでは、生成済み一時レポート データベース設定が [D ocAve 5 一時レポート データベース] エリアに表示され、DocAve 6 レポート データベース設定は [DocAve 6 レポート データベース] エリアに表示されます。以下は構成が必要な データ設定 です。
 - レポート タイプ DocAve 5 レポート ポイント履歴データでアップグレードする機能を選択します (ストレージ トレンド / サイト コレクションの読み込み時間)。
 - レポート サービス タイム ゾーン DocAve 5 レポート サービスのタイム ゾーンを選択します。ここで選択したタイム ゾーンは、DocAve 5 レポート ポイント履歴データの取得時間を DocAve 6 取得時間に変換する際に使用されます。

- 期間を指定してください アップグレードする DocAve 5 レポート ポイント履歴データの期間を選択します。すべて を選択して DocAve 5 レポート ポイント履歴データすべてをアップグレードするか、カスタム を選択して指定期間内の DocAve 5 レポート ポイント履歴データのみをアップグレードすることもできます。
- 3. アップグレード をクリックするとレポート ポイント履歴データをアップグレードします。[レポート ポイント 履歴データのアップグレードに成功しました。] というメッセージが表示されます。

コンプライアンス監査データのアップグレード

- 1. モジュールを選択してください ドロップダウン リストから [コンプライアンス監査データ] を選択して Do cAve 5 コンプライアンス データを DocAve 6 にアップグレードします。
- 2. DocAve 5 監査データベースの設定を構成します。

DocAve 5 で Built-in 監査データベースを使用する場合、以下の設定が表示されます。これらの設定は構成を完了する必要があります。

- a. DocAve 監査データベースが DocAve アップグレード ツールを実行中の現在のサーバー内 に保存されている場合は **[ローカル パス]** を選択します。それ以外の場合は **[UNC パス]** を選択して UNC パスおよび指定したパスに接続するための証明書を入力します。
- b. [テスト] をクリックして入力した設定を確認します。

必要な場合は、以下の手順に従って必要な データ パス 情報を探します。

- i. DocAve 5 マネージャーにログインします。
- ii. [コントロール パネル] > [データ管理] > [デバイス マネージャー] の順に移動し ます。
- iii. [監査マネージャー]をデバイスタイプとして選択します。
- iv. 既定監査デバイス で [編集] をクリックすると、ポップアップ ウィンドウに設定が表示 されます。ここで表示されるインターフェイスには、データ パス情報が表示されます。

DocAve 5 で SQL 監査データベースを使用する場合、以下の設定が表示されます。これらの設定 は構成を完了する必要があります。

- a. データベース サーバー DocAve 5 監査データベースが存在している SQL Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- b. データベース名 DocAve 5 監査データベースの名前を入力します。

- c. 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。 必要な場合、以下の手順に従って指定のデータベース サーバー、データベース名、認証、ユ ーザー名およびパスワード情報を確認できます。
 - i. DocAve 5 監査サービスがインストールされている環境に移動します。
 - ii. [スタート] > [すべてのプログラム] > [AvePoint DocAve v5] > [DocAve v5] > [DocAve v5] > [マネージャー ツール] > [マネージャー構成ツール] の順に移動します。
 - iii. ツール インターフェイスを開き、 監査サービス ポート の横の [データベースを構成]
 ボタンをクリックします。 サーバー情報がインターフェイスに表示されます。
- 3. 必要な場合、以下の手順に従って DocAve 6 監査データベース サーバー、データベース名、認証、 ユーザー名およびパスワード情報を確認できます。
 - a. DocAve 6 レポート サービスがインストールされている環境に移動します。
 - b. [スタート] > [すべてのプログラム] > [AvePoint DocAve 6] > [DocAve 6 マネ ージャー ツール] > [マネージャー構成ツール] の順に移動します。
 - c. [監査データベース設定] タブをクリックします。このインターフェイスには、データベース サーバ ー、データベース名、認証、ユーザー名およびパスワード情報が表示されます。
- 4. DocAve 6 監査データベースの設定を構成します。
 - データベース サーバー DocAve 6 監査データベースが存在している SQL Server の IP アドレスまたはホスト名を入力します。
 - データベース名 DocAve 6 監査データベースの名前を入力します。
 - 認証 ドロップダウン リストから認証方法を選択して、[ユーザー名] および [パスワード] の テキストボックスに該当する証明書を入力します。
- 5. データ設定を構成します。
 - ファーム範囲 DocAve 5 コンプライアンス データをアップグレードするファームを選択します。
 [すべてのファーム] を選択してすべてのファームの DocAve 5 コンプライアンス データをアップ グレードするか、[カスタム] を選択して指定のファームの DocAve 5 コンプライアンス データ をアップグレードします。
 - 期間を指定してください アップグレードする DocAve 5 コンプライアンス データの期間を選択します。[すべて]を選択してすべての DocAve 5 コンプライアンス データをアップグレードす

るか、**[カスタム]** を選択して指定期間内の DocAve 5 コンプライアンス データのみをアップ グレードすることもできます。

- 6. [アップグレード] をクリックしてコンプライアンス監査データをアップグレードします。[コンプライアンス監査データのアップグレードに成功しました。] というメッセージが表示されます。
- 7. 該当するデータが正常にアップグレードされたら、[完了] をクリックしてアップグレード ツールを終了しま す。

ステップ 6: データのアップグレード

DocAve アップグレード ツールを使用して適用可能なアップグレードが完了したら、次に DocAve 5 データを アップグレードします。詳細については以下のセクションを参照してください。

完了

データのアップグレードのステップは、DocAve 5 バックアップ データのリストア、DocAve 5 アーカイブ済みデー タの読み取りおよびリストア、DocAve 5 スタブおよび BLOB の処理などを実行する際に必要です。 データ ア ップグレードはコントロール パネルのデータ マネージャーを使用して行われます。DocAve 6 経由で **[DocAv e]** > **[コントロール パネル]** > **[製品ごとの設定]** > **[データ マネージャー]** > **[データ マネージャー]** の 順に移動して、データをアップグレードするモジュールを選択します。

*注意: 指定のモジュールのライセンスを持っていない場合、[データ マネージャー] 画面内リボン上の該当の ボタンがグレーアウト表示されます。

データ アップグレード プロセスは 2 つの操作から構成されています。

- バックアップ・アーカイブ データのアップグレード: このアップグレード プロセスでは、DocAve 5 から Doc Ave 6 インデックスを生成し、DocAve 5 データを DocAve 6 で有効・使用可能にします。このデ ータは、アップグレード後も DocAve 5 から引き続きアクセスすることができます。
- BLOB およびスタブのアップグレード: このアップグレード プロセスは、指定した方法に基づいて行われます。詳細については DocAve 5 スタブおよび BLOB データの変換 を参照してください。なお、このアップグレード後 BLOB データは DocAve 5 からアクセスできなくなります。

DocAve 5 データの DocAve 6 へのインポート

ダウンタイム: なし

完了までの時間 (平均): 30~60 分間 (SharePoint のオブジェクトの数によって変わります)

DocAve 5 から DocAve 6へのデータ インポートを構成するには、[データ マネージャー] 画面のリボン上で **[DocAve 5]** をクリックします。必要なモジュールのデータ インポート構成画面にアクセスするには、以下のセ クションの説明に従ってください。リボン上で **[データ タイプ**] をクリックし、ドロップダウン リストから処理するデー タを選択することもできます。 *注意: DocAve 6 では DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンからのデータのインポートがサポートされています。 DocAve 5.7.0.0 以下のバージョンから DocAve 6 にデータをインポートするには、まず DocAve v 5.7.0.0 以降のバージョンにアップグレードし、その後 DocAve 5 から DocAve 6 にデータをインポートします。

指定したアップグレードで適用可能な設定については、以下のセクションをご参照ください。以下のセクションでは、すべての必要なデータベース変換、デバイス アップグレードおよびプラン アップグレードは既にアップグレード ツールを使用して実行済みであるという前提に基づきます。

DocAve 5 最小単位バックアップデータのインポート

アップグレード ツールを使用してすべての適用可能なアップグレードが完了したら、DocAve 6 コントロール パネ ルに戻り [製品ごとの設定] > [データ マネージャー] カテゴリー > [データ マネージャー] に移動します。 [データ マネージャー] 画面のリボン上で [データ タイプ] をクリックし、ドロップダウン リストから [最小単位バッ クアップ データ] を選択します。

*注意: DocAve では、DELL DX ストレージ または EMC Centera ストレージの最小単位バックアップ データのアップグレードには対応しておりません。

DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンの最小単位バックアップ データを DocAve 6 にインポートするには、以下の手順に従ってください。

- 1. 前提条件 DocAve 5 最小単位バックアップ データを保存するデバイスが DocAve 6 ストレージ ポリシーへマッピングされていることを確認してください。
 - 最小単位バックアップデータに関連するデバイスがすべてアップグレード ツールによりアップグレード マールによりアップグレードされている場合、[マッピング済み]を選択します。
 - バックアップデータを含む場所としてストレージポリシーを定義する必要がある場合は、[未マッピング]を選択して [ストレージポリシーの構成]をクリックし、バックアップデータのストレージポリシーを構成します。
- 2. データの選択 DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンからインポートするデータを選択します。バック アップ データは、バックアップ データが作成されたストレージ ポリシー毎に並べ替えられます。
 - a. ストレージ ポリシー ドロップダウン リストから、DocAve 5 最小単位バックアップ データを含む DocAve 6 ストレージ ポリシーを選択します。
 - b. 表示されているデータ ツールでファーム レベルから完全バックアップ サイクル レベルまでを参照し、必要なデータを選択します。
 - ファームのデータをインポートする場合、ファーム名の下にある [すべて選択] チェックボックスを選択します。
 - 特定のプランのすべてのデータ、または特定のバックアップ ジョブのデータをインポートするには、適切なプランまたはジョブを選択します。
 - c. [詳細の表示] をクリックすると、このバックアップ ジョブに使用される論理デバイスやサイクル内 のすべてのジョブを表示できます。

*注意: DocAve 6 に既にインポート済みのバックアップ ジョブ データを選択した場合、最終 インポート日時 列に最終インポート日時が表示されます。

- d. インポートするデータを選択したら、「次へ」をクリックします。
- 3. 通知 必要な場合は、データ マネージャーを構成して指定の DocAve ユーザーにメール通知レポートを送信します。
 - a. アドレスのみのプロファイルの選択 ドロップダウン リストから構成済みメール通知を選択する か、または [通知プロファイルの新規作成] をクリックして新しい通知を作成します。通知設 定の構成方法の詳細については、<u>コントロール パネル ユーザーガイド</u>内 ユーザー通知設定 の説明 を参照してください。
 - b. [表示] をクリックすると、ユーザー通知設定 ウィンドウが開き、通知設定の詳細が表示されます。[編集] をクリックして通知設定を編集するか、[閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。
 - c. 通知構成を終了したら、[次へ]をクリックします。
- 4. 概要 インポート済みプランおよび設定 テーブル内でデータ インポート構成をレビューします。
- 5. [完了] をクリックしてジョブを開始します。 データ マネージャーの画面に戻ります。 [キャンセル] をクリッ クすると、 ジョブを実行せずに データ マネージャーの画面に戻ります。
- 6. 必要な場合は、リボン上で [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター 画面に移動してジョブ 詳細を表示します。
- 7. ジョブが完了したら、DocAve 6 最小単位バックアップ & リストア画面に移動し、**リストア ウィザード** を使用して DocAve 5 バックアップ データが DocAve 6 でリストア可能であることを確認します。

DocAve 5 プラットフォーム バックアップ データのインポート

アップグレード ツールを使用してすべての適用可能なアップグレードが完了したら、DocAve 6 コントロール パネ ルに戻り [製品ごとの設定] > [データ マネージャー] カテゴリー > [データ マネージャー] に移動します。デ ータ マネージャー 画面のリボン上で [データ タイプ] をクリックし、ドロップダウン リストから [プラットフォーム バックアップ データ] を選択します。

*注意: DocAve では、EMC Centera ストレージに保存しているプラットフォーム バックアップ データのアップ グレードには対応しておりません。 DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンのプラットフォーム バックアップ データを DocAve 6 にインポートするには、以下の手順に従ってください。

- 1. 前提条件 DocAve 5 プラットフォーム バックアップ データを保存するデバイスが DocAve 6 ストレ ージ ポリシーへマッピングされていることを確認してください。
 - プラットフォーム バックアップ データに関連するデバイスがすべてアップグレード ツールによりアップ グレードされている場合、[マッピング済み]を選択します。
 - バックアップデータを含む場所としてストレージポリシーを定義する必要がある場合は、[未マッピング]を選択して [ストレージポリシーの構成]をクリックし、バックアップデータのストレージポリシーを構成します。
- 2. データの選択 DocAve v5.7.0.0 以降のバージョンからインポートするデータを選択します。 バック アップ データは、 バックアップ データが作成されたストレージ ポリシー毎に並べ替えられます。
 - a. **ストレージ ポリシー** ドロップダウン リストから、DocAve 5 プラットフォーム バックアップ データ を含む DocAve 6 ストレージ ポリシーを選択します。
 - b. 表示されているデータ ツールでファーム レベルから完全バックアップ サイクル レベルまでを参照 し、必要なデータを選択します。
 - ファームのデータをインポートする場合、ファーム名の下にある [すべて選択] チェックボックスを選択します。
 - 特定のプランのすべてのデータ、または特定のバックアップジョブのデータをインポートするには、適切なプランまたはジョブを選択します。
 - c. [詳細の表示] をクリックすると、このバックアップ ジョブに使用される論理デバイスやサイクル内 のすべてのジョブを表示できます。

*注意: DocAve 6 に既にインポート済みのバックアップ ジョブ データを選択した場合、最終 インポート日時 列に最終インポート日時が表示されます。

- d. インポートするデータを選択したら、[次へ]をクリックします。
- 3. 通知 必要な場合は、データ マネージャーを構成して指定の DocAve ユーザーにメール通知レポー トを送信します。
 - a. アドレスのみのプロファイルの選択 ドロップダウン リストから構成済みメール通知を選択する か、または [通知プロファイルの新規作成] をクリックして新しい通知を作成します。通知設

定の構成方法の詳細については、<u>コントロール パネル ユーザーガイド</u>内 **ユーザー通知設定**の説明 を参照してください。

- b. [表示] をクリックすると、ユーザー通知設定 ウィンドウが開き、通知設定の詳細が表示されます。[編集] をクリックして通知設定を編集するか、[閉じる] をクリックしてウィンドウを閉じます。
- c. 通知構成を終了したら、[次へ]をクリックします。
- 4. 概要 インポート済みプランおよび設定 テーブル内でデータ インポート構成をレビューします。
- 5. [完了] をクリックしてジョブを開始します。 データ マネージャーの画面に戻ります。 [キャンセル] をクリッ クすると、 ジョブを実行せずに データ マネージャーの画面に戻ります。
- 6. 必要な場合は、リボン上で [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター 画面に移動してジョブ 詳細を表示します。
- ジョブが完了したら、DocAve 6 プラットフォーム バックアップ & リストア画面に移動し、リストア ウィザ ード を使用して DocAve 5 バックアップ データが DocAve 6 でリストア可能であることを確認しま す。

DocAve 5 アーカイバ データのインポート

DocAve 5 アーカイバ データ インポート オプションは DocAve 5 アーカイバ スタブの作成されていない Doc Ave 5 アーカイバ データに対して使用します。

データ インポートの前に

データ マネージャーを使用してアーカイバ データのアップグレードを開始する前に、 論理デバイスおよびストレージ ポリシーを構成する必要があります。

- 論理デバイスを構成するには、コントロール パネル インターフェイスにアクセスして、[製品ごとの設定]
 [ストレージ構成] > [論理デバイス] をクリックします。 DocAve 5 アーカイバ インデックス保存先に関連付けている物理デバイスを使用する論理デバイスを作成することができます。 論理デバイスの構成の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内の論理デバイスの 構成セクション をご参照ください。
- ストレージ ポリシーを構成するには、コントロール パネル インターフェイスにアクセスして、[製品ごとの 設定] > [ストレージ構成] > [ストレージ ポリシー] をクリックします。ここで DocAve 5 アーカイバ

データ保存先に関連付けている論理デバイスを使用するストレージ ポリシーを作成することができます。ストレージ ポリシーの構成の詳細については、<u>コントロール パネル ユーザーガイド</u> 内の**論理デバイ** ス構成 セクションをご参照ください。

 DocAve 6 物理デバイスを設定する場合、DocAve 5.7.0.0 以降のバージョンの物理デバイスと 同じパスおよび設定を使用していることを確認してください。

アーカイバ データのインポート進行状況

論理デバイスおよびストレージ ポリシーの構成を終了したら、コントロール パネルに戻り [データ マネージャー] をクリックします。[データ マネージャー] 画面のリボン上で [データ タイプ] ボタンをクリックし、ドロップダウン リス トから [アーカイバ データ] を選択します。

*注意: DocAve では、 DELL DX ストレージ または EMC Centera ストレージのアーカイバ データのアッ プグレードには対応しておりません。

- 1. 前提条件 次のマッピングおよび構成を完了してください。
 - a. DocAve 5 アーカイバ インデックス デバイスのマッピング ここでは、DocAve 5 アーカイ バ インデックス保存先と関連付けられた物理デバイスを使用する論理デバイスを構成する必 要があります。論理デバイスの構成方法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイ ド内 論理デバイスの構成 を参照してください。
 - このセクションの説明通りに論理デバイスを構成してある場合は、[マッピング済み] を 選択します。
 - これらの構成を完了していない場合、[未マッピング](既定で選択済み)を選択して、[論理デバイスの構成]リンクをクリックします。ストレージ ポリシーの構成を完了し、前提条件ページに戻って [マッピング済み]を選択します。
 - b. DocAve 5 アーカイバ データ デバイスのマッピング ここでは、DocAve 5 アーカイバ デ ータ保存先と関連付けられた論理デバイスを使用するストレージ ポリシーを構成する必要が あります。ストレージ ポリシーの構成方法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイ ド 内 ストレージ ポリシーの構成 を参照してください。
 - このセクションの説明通りに物理デバイスを構成してある場合は、[マッピング済み]を 選択します。

- これらの構成を完了していない場合、[未マッピング] (既定で選択済み) を選択して、[ストレージ ポリシーの構成] リンクをクリックします。ストレージ ポリシーの構成を完了し、前提条件ページに戻って [マッピング済み] を選択します。
- c. DocAve 6 アーカイバ インデックス デバイスの構成 ここでは、DocAve 6 アーカイバ インデックスを保存するアーカイバ インデックス デバイスを構成する必要があります。
 - アーカイバインデックスデバイスがすでに構成されてある場合、[構成済み]を選択します。
 - アーカイバ インデックス デバイスを構成していない場合、[アーカイバ インデックス デバイスの構成] リンクをクリックして [アーカイバ インデックス デバイス] 画面に移動します。アーカイバ インデックス デバイスの構成を完了し、前提条件ページに戻って [構成済み] を選択します。

表示される 3 つのフィールドすべてで [マッピング済み] もしくは [構成済み] のいずれかを選択し、 [次へ] をクリックして次の手順へ移動します。

- 2. データの選択 インポートする DocAve 5.7.0.0 以降のバージョンのアーカイバ インデックスを選択 します。アーカイブ データは、バックアップ データが保存されたデバイス毎に並べ替えられます。
 - a. デバイス ドロップダウン リストから DocAve 5 アーカイバ インデックスのマッピングを実行する 際に構成した DocAve 6 論理デバイスを選択します。
 - b. 表示されているデータ ツールでファーム レベルからサイト コレクション レベルまでを参照し、イン ポートするインデックスを含むノードを選択します。

*注意: インポート済みのインデックスを含むノードを選択すると、[最終インポート日時] 列 内でインデックスの最終インポート日時を表示させることができます。

- c. 構成が終わったら、[次へ]をクリックして次の手順に進みます。
- 3. 設定 次の設定を構成します。
 - a. メディア サービス インデックス データの取得に使用するメディア サービスをドロップダウン リストから選択します。
 - b. 通知 必要な場合は、データマネージャーを構成して指定の DocAve ユーザーにメール通知レポートを送信します。ドロップダウン リストから構成済み通知プロファイルを選択するか、
 [通知プロファイルの新規作成]をクリックして新しい通知プロファイルを作成します。通知設定の構成方法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内 ユーザー通知設定の説明 を参照してください。

- c. プレスキャン インポート ジョブを実行する前に DocAve 5 アーカイバ データのデバイス マッ ピング状態をスキャンします。[アーカイブ インデックスおよびデータをインポートする前にデバ イス マッピング状態をスキャンする] を選択します。ここでは、アーカイバ スキャン データ ジョブ とアーカイバ インポート データ ジョブの 2 種類のジョブを実行できます。この スキャン 機能で は、すべての DocAve 5 アーカイバ データ デバイスが該当の DocAve 6 ストレージ ポリシ ーにマッピングされているかどうかを確認します。
- 4. [完了] をクリックしてジョブを開始します。 データ マネージャーの画面に戻ります。 [キャンセル] をクリッ クすると、 ジョブを実行せずに データ マネージャーの画面に戻ります。
- 5. 必要な場合は、リボン上で [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター 画面に移動してジョブ 詳細を表示します。
- 6. ジョブが完了したら、DocAve 6 アーカイバ インターフェイスに移動し、アーカイバ リストア 機能を使用して DocAve 5 バックアップ データが DocAve 6 でリストア可能であることを確認します。

DocAve 5 スタブおよび BLOB データの変換

スタブおよび BLOB の変換ステップは、DocAve 5 から DocAve 6 へのアップグレード プロセス中で 「これ以降戻ることのできないポイント」となります。スタブおよび BLOB のアップグレード プロセスを開始 してしまうと、DocAve 5 インスタンスに完全にロールバックすることが非常に困難となるためです。従って、 この変換を実行する前に、DocAve 6 への完全アップグレードを本当に実行するかどうかをよく確認する必 要があります。

スタブおよび BLOB データをアップグレードするには 2 つの方法があります。最初のアプローチは、指定期間中 (週単位または月単位) に DocAve 5 および DocAve 6 のスタブおよび BLOB が共存する「受動的」なア プローチです。スタブおよび BLOB はこの期間中に段階的にアップグレードされます。このアプローチでは、DocA ve 5 および DocAve 6 の BLOB プロバイダーは同時に稼働しますが、追加のストレージ容量は不要です。

もう 1 つのアプローチは、DocAve データ マネージャーを使用してスタブを DocAve 5 から DocAve 6 にア ップグレードする「能動的」なアプローチです。このアプローチではすべての DocAve 5 BLOB を再度取り込ん でから外部化するため、現在お使いの DocAve 5 BLOB ソリューションに割り当てられているストレージの 2 倍の容量が必要になります。このアプローチは受動的アプローチよりも多くのストレージ容量が必要ですが、はる かに高速な処理が可能です。

コンテンツの再取り込みを避け、DocAve 5 から DocAve 6 RBS プロバイダーに短時間で移行して既存の ストレージを直接再利用する場合は、弊社技術サポートにお問い合わせいただきさらなるアクションについてアド バイスを得ることを推奨します。

DocAve 5 スタブおよび BLOB を変換する 「受動的」 アプローチ

予想されるダウンタイム: なし

完了までの時間 (平均): 該当なし

前述のように、受動的なアプローチでは DocAve 5 と DocAve 6 スタブおよび BLOB の共存が発生しま す。このプロセスの概要と、このアプローチの実行するための具体的な手順については、以下のセクションをご参 照ください。

「受動的」アプローチの概要

DocAve 5 BLOB プロバイダーおよび DocAve 6 BLOB プロバイダーの両方を同時に利用することで、Doc Ave 5 および DocAve 6 の BLOB およびスタブの共存が可能となります。お使いの環境で DocAve 6 BL OB プロバイダーを構成すると、そのプロバイダーは自動的にアクティブ BLOB プロバイダーに設定され、DocAv e 5 BLOB プロバイダーはパッシブ BLOB プロバイダーとなります。

*注意: この「アクティブ」 および「パッシブ」 BLOB プロバイダーの役割と、本ガイドで説明されている「能動的」 および「受動的」 変換アプローチとを混同しないようにご注意ください。「アクティブ」 および「パッシブ」 とは、 BLOB プロバイダーを同じ環境で同時に実行する状況下で BLOB プロバイダーの役割を説明するための 技術用語です。

- 新規にアップロードするコンテンツの場合: 外部化条件を満たすファイルが SharePoint にアップグレ ードされると、パッシブ BLOB プロバイダーは SharePoint コンテンツ データベースに新しい BLOB 用のスタブを作成し、BLOB を DocAve 6 論理デバイスまたは接続パスで定義された場所にオフロ ードします。この場合、スタブおよび BLOB はただちに DocAve 6 データと見なされます。
- 既存コンテンツの場合: データ マネージャーが既存の v5 スタブおよび BLOB を処理する方法は、お使いの DocAve 5 環境でバージョン機能を有効にしているかどうかに依存します。
 - a. バージョン機能が有効に設定されている場合: 外部化された DocAve 5 BLOB ファイルの 任意のバージョンを SharePoint で開く場合、パッシブ BLOB プロバイダーが BLOB を指 定してユーザーに提示します。この BLOB を編集・保存することで、アクティブ BLOB プロバ イダーが DocAve 6 コンテンツ データベース内に新しい v6 スタブを作成し、適切なストレー ジ場所に対応する新しい v6 BLOB を作成します。これ以降、スタブおよび BLOB は Doc Ave 6 データとなります。なおバージョン機能が有効になっている場合は、お使いの v5 環境 に旧バージョンの v5 スタブおよび BLOB がすべてが残ります。このデータの処理方法について は、v5 バージョンが有効な場合の残りの v5 BLOB およびスタブの処理方法 を参 照してください。
 - b. バージョン機能が設定されていない場合: 外部化された DocAve 5 BLOB ファイルを Sh arePoint で開く場合、パッシブ BLOB プロバイダーが BLOB を指定してユーザーに提示します。この BLOB を編集・保存することで、アクティブ BLOB プロバイダーが DocAve 6 コンテンツ データベース内に新しい v6 スタブを作成すると同時に DocAve 5 コンテンツ データベース内から v5 スタブを削除し、適切なストレージ場所に対応する新しい v6 BLOB を作成します。これ以降、スタブおよび BLOB は DocAve 6 データとなります。

ここでは、DocAve 5 と DocAve 6 の両方のシステムが動いている場合、スタブおよび BLOB は SharePoint の通常使用を通じてやがて DocAve 6 に変換される、という考え方に基づいています。 実際はエンド ユーザー自身がアップグレードを実行します。

「受動的」 アプローチの長所:

• 追加のストレージ容量が不要

「受動的」 アプローチの短所:

長い同時稼働期間

v5 バージョンが有効な場合の残りの v5 BLOB およびスタブの処理方法

時間の経過とともに、「受動的」 アプローチの概要 内のプロセスによってすべての更新済み DocAve 5 スタブおよび BLOB は DocAve 6 データへ変換されます。この場合、バージョン機能が有効に設定されてい れば、旧 BLOB バージョンおよび対応するスタブは残されます。ストレージ容量の問題を回避するには、DocA ve 6 スケジュール ストレージ マネージャーを定期的に実行して DocAve 5 環境で孤立した BLOB を特定 し、DocAve 6 のストレージ場所に移動する必要があります。

同時稼働時間の終了までに更新されなかったコンテンツの処理方法

通常、「受動的」 アップグレードの間に、外部化されたコンテンツがすべて編集され保存されるとは限りません。 そのため、同時稼働期間の終了時に DocAve 5 および BLOB データがそのまま存在している可能性があり ます。

DocAve 6 への変換を完全に実行する準備ができた段階で、「能動的」 アップグレードを実行し、残りの Do cAve 5 スタブおよび BLOB を DocAve 6 データに変換することができます。 なお、 この作業では残りの BL OB 容量の 2 倍のストレージ容量が必要になります。

「受動的」アップグレードのステップバイステップ設定

前述の説明を踏まえ、「受動的」アップグレードを実行する場合は、以下の説明に従ってください。

- 1. 「受動的」 アップグレードを実行する予定期間を決定します。この期間中、 DocAve 5 および DocA ve 6 は、 v5 パッシブ BLOB プロバイダーおよび v6 アクティブ BLOB プロバイダーにより、同時に稼働します。
- 2. DocAve 6 SP1 がお使いのファームに正しくインストールされていることを確認してください。正しいイン ストールについては、<u>前提条件</u>を参照してください。
- お使いの DocAve 5 環境でバージョン機能を有効にしている場合、DocAve 6 スケジュール ストレ ージ マネージャー ジョブが構成済みであり、DocAve 5 スタブおよび BLOB を DocAve 6 のストレ ージ場所に移動するために必要な設定がなされていることを確認してください。
- お使いの環境で BLOB プロバイダーを構成してください。BLOB プロバイダーの構成の詳細について は、<u>http://www.avepoint.co.jp/resources/user-guides/</u>の DocAve 6 ストレージ最適 化製品ユーザー ガイドのいずれかを参照してください。
- 5. DocAve 6 ストレージ マネージャー、アーカイバ、コネクタについて、適切なデータベース、論理デバイ ス、ストレージ ポリシー、および接続パスをそれぞれ構成します。これらの構成の詳細については、<u>htt</u> <u>p://www.avepoint.co.jp/resources/user-guides/</u>の該当製品ユーザー ガイドを参照してく ださい。
- 6. 同期稼働期間の終了時に、残りの DocAve 5 BLOB およびスタブを対象とした「能動的」アップグ レードを実行します。

DocAve 5 スタブおよび BLOB を変換する「能動的」 アプローチ

予想されるダウンタイム: なし

完了までの時間 (平均): 24 時間毎に 1 TB (SharePoint のオブジェクトの数によって変わります)

「能動的」 アプローチでは、 DocAve データ マネージャーを使用して DocAve 5 から DocAve 6 ヘスタブを アップグレードします。 このプロセスの概要と、 このアプローチの実行するための具体的な手順については、以下の セクションをご参照ください。

「能動的」アプローチの概要

「能動的」プロセスは「受動的」プロセスに比べてリソースの消費量が大きくなりますが、すべての BLOB および スタブを DocAve 6 環境に再度取り込む場合は「能動的」プロセスの方が高速となります。BLOB を v6 環境に取り込むため、このプロセスでは現在お使いの BLOB ストレージ容量の少なくとも 2 倍の容量が必要と なります。

例えばコンテンツ データベースごとなど、管理可能な区切りで BLOB の読み込みを実行することを推奨します。また、v5 環境で DocAve 5 スタブ保持ポリシーを実行し、DocAve 6 に既に変換されている DocAve 5 BLOB をあらかじめ削除しておく必要があります。

「能動的」 アプローチの長所:

• 「受動的」アップグレードよりも高速

「能動的」 アプローチの短所:

- 再取り込み中のパフォーマンス低下 (ユーザーが SharePoint WFE 経由でコンテンツを再度アップロ ードする場合とほぼ同じ)
- 追加のストレージ容量が必要

「能動的」アップグレードのステップバイステップ設定

「能動的」 アップグレードを使用して DocAve 5 スタブおよび BLOB データを変換する前に、BLOB プロバイ ダーおよび論理デバイスを構成する必要があります。コントロール パネルから [データ マネージャー] 画面に移動 し、 **[アーカイバ / バイナリ ストア スタブおよび BLOB データ]** フィールドの **[BLOB プロバイダー]** リンク をクリックして BLOB プロバイダー設定を構成します。BLOB プロバイダーの設定方法の詳細については、<u>スト</u> レージ_マネージャー ユーザーガイド の **BLOB プロバイダーの構成** の説明をご参照ください。

DocAve 5.7.0.0 以降のバージョンからインポートした BLOB データを保存する論理デバイスを指定するに は、コントロール パネルに移動して、[製品ごとの設定] > [ストレージ構成] > [論理デバイス] をクリックし ます。論理デバイスの構成の詳細については、<u>コントロール パネルの参照ガイド</u>の 論理デバイスの構成 の説 明を参照してください。

これら構成の完了後、コントロール パネルに戻って、[データ マネージャー] をクリックします。リボン上で [デー タ タイプ] ボタンをクリックし、ドロップダウン リストから [アーカイバ / バイナリ ストア スタブおよび BLOB デ ータ] を選択します。

スタブおよび BLOB データのインポートを構成するには、次の手順を実行してください。

- 1. 前提条件 次の構成を完了してください。
 - a. BLOB プロバイダー 作業の前にストレージ最適化で BLOB プロバイダーを構成する必要 があります。
 - このセクションの説明通りに BLOB プロバイダーを構成してある場合は、[構成済み]
 を選択します。
 - この構成を完了していない場合、[未構成] (既定で選択済み) を選択して、[BLO Bプロバイダーの構成] リンクをクリックします。BLOB プロバイダー 構成を完了し、 前提条件 ページに戻って [構成済み] を選択します。
 - b. **論理デバイスの構成** インポートした DocAve 5 BLOB データを保存する論理デバイスを 構成する必要があります。
 - このセクションの説明通りに論理デバイスを構成してある場合は、[構成済み] を選択します。

- この構成を完了していない場合、[未構成] (既定で選択済み)を選択して、[論理 デバイスの構成] リンクをクリックします。論理デバイスの構成が終わったら、前提条 件ページに戻り [構成済み] を選択します。
- c. 両方のフィールドで [構成済み] を選択してから、[次へ] をクリックします。
- 2. データの選択 DocAve 5.7.0.0 以降のバージョンからインポートするデータを選択します。
 - a. SharePoint 環境 ファーム レベルからサイト コレクション レベルまでを参照し、データのイ ンポート元ノードを選択します。ファーム ツリー上でノードを選択する場合は、以下の説明をご 参照ください。
 - ここでは同一ファーム内のノードのみを選択することができます。
 - ファーム、Web アプリケーションまたはコンテンツ データベースを選択している場合、右側に [構成] ボタンが表示されます。なお、このボタンは、選択したレベルのストレージ マネージャーの論理デバイスだけを構成します。一方、リボンの [構成] ボタンは、選択したノードすべてに対してストレージ マネージャー デバイスを構成します。ノードの隣の [構成] ボタンもしくはリボン上の [構成] ボタンをクリックし、ドロップダウン リストから論理デバイスを選択するか、[論理デバイスの新規作成] をクリックして論理デバイスを作成します。[OK] をクリックして、論理デバイス構成を完了してデータの選択インターフェイスに戻ります。[キャンセル] をクリックするとインターフェイスを終了します。
 - a. 論理デバイス 論理デバイスの構成が完了すると、構成済みのストレージ マネージャー論理 デバイスがこの列に表示されます。
 - b. 最終インポート日時 ファーム、Web アプリケーション、コンテンツ データベース内の変換済 みデータを選択した場合、最終インポート日時をこの列で表示することができます。事前にイン ポートしたデータをインポートする場合、同じデータ レベルを選択することができます。ジョブの 完了後、最終インポート日時が最新の時刻に変更されます。
 - c. 構成が終わったら、[次へ]をクリックして次の手順に進みます。
- 3. データ設定 以下の構成を設定します。
 - a. ストレージ マネージャー設定 ストレージ マネージャーの圧縮および暗号化を設定すること ができます。
 - データの圧縮 このオプションを使用すると、BLOB データを圧縮して容量を節約することができます。[圧縮] オプションから圧縮レベルを選択します。低圧縮レベルを使用する場合、圧縮速度が速い反面データ容量が大きくなります。高圧縮レベルを使

用すると、圧縮速度は遅くなりますが、データ容量は小さく高品質となります。小さい データ容量の場合、システムリソースをより多く消費し、ジョブ時間も長くなるため注 意してください。圧縮は SharePoint サーバー (SharePoint エージェント)上で実 行されます。

- データの暗号化 データの暗号化を有効にするには、[暗号化] を選択し、[セキュ リティ プロファイル] ドロップダウン リストからセキュリティ プロファイルを選択します。
 [セキュリティ プロファイルの新規作成] をクリックすることで、新しいセキュリティ プロ ファイルを作成することもできます。暗号化は機密情報を保護することができますが、
 暗号化したデータのジョブ作業には時間が多くかかります。暗号化は SharePoint サーバー (SharePoint エージェント) 上で実行されます。
- a. エージェント グループ 1 つのファーム内に複数のエージェント グループがある場合、エージェ ント グループを選択してデータ インポート ジョブを実行することができます。 [エージェント グル ープの新規作成] リンクをクリックすることで、新しいエージェント グループを作成することもでき ます。
- b. 通知 通知プロファイルを指定して指定の DocAve ユーザーへメール通知レポートを送信します。ドロップダウン リストから構成済み通知プロファイルを選択するか、[通知プロファイルの新規作成]をクリックして新しい通知プロファイルを作成します。通知設定の構成方法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内 ユーザー通知設定の説明 を参照してください。
- c. スケジュールの選択 データ変換ジョブを実行するスケジュールを設定します。ジョブをただち に実行するには、[ウィザード完了後にインポートする] を選択します。 DocAve 変換ジョブ を指定時刻に実行する場合は、[手動でスケジュールを構成する] を選択してスケジュールを 設定します。
- 4. [完了] をクリックしてジョブを開始します。 データ マネージャーの画面に戻ります。 [キャンセル] をクリッ クすると、 ジョブを実行せずに データ マネージャーの画面に戻ります。
- 5. 必要な場合は、リボン上で [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター 画面に移動してジョブ 詳細を表示します。

DocAve 5 コネクタ スタブの変換

予想されるダウンタイム: コネクタ ソリューションを取り消して再展開する場合に必要な時間

完了までの時間 (平均): 24 時間毎に約 100 万アイテム

コネクタ スタブをインポートする前に、DocAve 5 コネクタ ソリューション (AvePointSPFileConnector.wsp および AvePointSPMediaConnector.wsp) を SharePoint から削除し、DocAve 6 コネクタ ソリュー ション (SP2010ConnectorContentLibrary.wsp および SP2010ConnectorMediaLibrary.wsp) を SharePoint にインストールして展開しておく必要があります。DocAve 6 コネクタ ソリューションの展開方 法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内 **ソリューション マネージャー** の説明を参照してく ださい。DocAve ソリューション マネージャー内ではファーム レベルにのみ展開することができます。また、Share Point へ移動して、ソリューションを Web アプリケーション レベルもしくはファーム レベルに展開することもできま す。

DocAve コネクタ スタブをインポートする前に、BLOB プロバイダーを構成する必要があります。コントロール パ ネルから [データ マネージャー] 画面に移動し、**[コネクタ スタブ]** フィールドの **[BLOB プロバイダー]** リンク をクリックして BLOB プロバイダー設定を構成します。BLOB プロバイダーの設定方法の詳細については、<u>コネ</u> <u>クタ ユーザー ガイド</u>内 **BLOB プロバイダー** の構成の説明をご参照ください。

構成が完了したら、コントロール パネルに戻り、 [製品ごとの設定] 内 [データ マネージャー] セクション配下の [データ マネージャー] リンクをクリックします。 リボン上で [データ タイプ] をクリックし、 ドロップダウン リストから [コネクタ スタブ] を選択します。

DocAve コネクタ スタブを構成するには、次の手順を完成してください。

- 1. 前提条件 次の構成を完了してください。
 - BLOB プロバイダー 作業の前にストレージ最適化で BLOB プロバイダーを構成する必要 があります。
 - このセクションの説明通りに BLOB プロバイダーを構成してある場合は、[構成済み]
 を選択します。[次へ]をクリックして次の手順へ移動します。
 - この構成を完了していない場合、[未構成] (既定で選択済み)を選択して、[BLO
 Bプロバイダーの構成] リンクをクリックします。BLOB プロバイダー構成を完了し、

前提条件ページに戻ります。その後 [構成済み] を選択して、[次へ] をクリックして 次の手順へ移動します。

- 2. データの選択 DocAve 5.7.0.0 以降のバージョンからインポートするコネクタ スタブを選択します。
 - SharePoint 環境 ファーム レベルからコンテンツ データベース レベルまでを参照し、コネ クタ スタブのインポート元ノードを選択します。
 - 最終インポート日時 ファーム、Web アプリケーション、コンテンツ データベース内の変換済 みデータを含むノードを選択した場合、最終インポート日時をこの列で表示することができま す。事前にインポートしたデータをインポートする場合、同じデータ レベルを選択することができ ます。ジョブの完了後、最終インポート日時が最新の時刻に変更されます。
- 3. データ設定 次の構成を設定します。
 - エージェント グループ 1 つのファーム内に複数のエージェント グループがある場合、エージェント グループを選択してコネクタ スタブ インポート ジョブを実行することができます。[エージェント グループの新規作成] リンクをクリックすることで、新しいエージェント グループを作成することもできます。
 - 通知 通知プロファイルを指定して指定の DocAve ユーザーへメール通知レポートを送信します。ドロップダウン リストから構成済み通知プロファイルを選択するか、[通知プロファイルの新規作成]をクリックして新しい通知プロファイルを作成します。通知設定の構成方法の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイドを参照してください。
 - スケジュールの選択 データ変換ジョブを実行するスケジュールを設定します。ジョブをただちに実行するには、[ウィザード完了後にインポートする] を選択します。 DocAve 変換ジョブを指定の時刻に実行するには、[手動でスケジュールを構成する] を選択してスケジュールを設定します。ドロップダウン カレンダーから日にちを選択し、テキスト ボックスに時間および分を入力してジョブの開始時刻を指定することができます。
- 4. [完了] をクリックしてジョブを開始します。 データ マネージャーの画面に戻ります。 [キャンセル] をクリッ クすると、 ジョブを実行せずに データ マネージャーの画面に戻ります。
- 5. 必要な場合は、リボン上で [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター 画面に移動してジョブ 詳細を表示します。

DocAve 5 ソリューション データのインポート

ソリューション データには、コピーおよびバージョン履歴が DocAve 5 ソリューション ストアに保存されている Do cAve 展開マネージャーを使用して展開された SharePoint ソリューションが含まれます。

この機能を使用する前に、ストレージ ポリシーおよび論理デバイスを構成する必要があります。ストレージ ポリシ ーを構成するには、コントロール パネル インターフェイスから、[製品ごとの設定] の [ストレージ構成] セクション 配下の **[ストレージ ポリシー]** リンクをクリックします。ここで DocAve 5 ソリューション データ プラットフォームに 関連付けている論理デバイスを使用するストレージ ポリシーを作成することができます。ストレージ ポリシーの構 成の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内の **論理デバイス構成** セクションをご参照ください。

論理デバイスを構成するには、コントロール パネル インターフェイスから、 [製品ごとの設定] 内 [ストレージ構成] セクション配下の [論理デバイス] リンクをクリックします。ここで DocAve 5 ソリューション データ プラットフォームに関連付けている物理デバイスを使用する論理デバイスを作成することができます。 論理デバイスの構成の詳細については、コントロール パネル ユーザーガイド 内の論理デバイスの 構成セクション をご参照ください。

論理デバイスおよびストレージ ポリシーの構成が完了したら、コントロール パネルに戻り、[製品ごとの設定] 内 [データ マネージャー] セクション配下の **[データ マネージャー]** リンクをクリックします。[データ マネージャー] 画 面のリボン上で **[データ タイプ]** ボタンをクリックし、ドロップダウン リストから **[ソリューション データ]** を選択し ます。

*注意: エクスポート済みの DocAve 5 ソリューション データを DocAve 6 ヘアップグレードする場合、DocA ve 5 ソリューション データのインポートを使用してソリューション データをアップグレードすることができます。DocA ve 5 ソリューション データのエクスポート方法の詳細については、DocAve 5 ユーザー ガイド 内 **ソリューショ** ン センター の説明をご参照ください。

DocAve 5 ソリューション データのインポートを構成するには、次の手順を実行してください。

- 1. 前提条件 DocAve 5 ソリューション センター デバイスが DocAve 6 ストレージ ポリシーへマッピン グされていることを確認してください。
 - このセクションの説明通りにストレージ ポリシーおよび論理デバイスを構成してある場合は、[マッピング済み]を選択します。[次へ]をクリックして次の手順へ移動します。
 - これらの構成を完了していない場合、[未マッピング](既定で選択済み)を選択して、[スト レージ ポリシーの構成]リンクをクリックします。ストレージ ポリシーおよび論理デバイスの構成

を完了し、前提条件ページに戻ります。その後 [マッピング済み] を選択し、[次へ] をクリック して次の手順へ移動します。

 データの選択 - DocAve 5.7.00 以降のバージョンからインポートするソリューション データを選択します。 [ストレージ ポリシー] ドロップダウン リストから構成済みストレージ ポリシーを選択します。 ツリー 上に表示されるルート ノードは論理デバイスの名前です。 論理デバイスをクリックすると、 デバイスに保 存しているソリューション データを参照することができます。

構成が完了したら、[次へ]をクリックして次の手順へ移動します。

3. 通知 - 通知プロファイルを指定して指定の DocAve ユーザーへメール通知レポートを送信します。ド ロップダウン リストから構成済み通知プロファイルを選択するか、[通知プロファイルの新規作成] をクリ ックして新しい通知プロファイルを作成します。通知設定の構成方法の詳細については、ユントロール パネルの参照ガイド のユーザー通知設定セクションをご参照ください。[表示] をクリックすると、選択し た通知の詳細を表示することができます。

構成が終わったら、[次へ]をクリックして次の手順に進みます。

 [完了] をクリックしてすべての変更を保存し、データ マネージャー画面に戻ります。[キャンセル] をクリックすると、変更を保存せずに構成インターフェイスを終了します。表示されるプロンプト メッセージ内の [ジョブ モニター] をクリックすると、ジョブ モニター画面に移動してジョブ詳細を表示することができます。

ステップ 7: DocAve 6 環境の最適化

すべてのプランおよびデータが DocAve 6 にアップグレードされ、プラットフォームで正しく動いていることを確認で きたら、DocAve 5 から DocAve 6 への切り替えはほぼ完了です。アップグレード後の最適化作業は、お使 いの DocAve 5 展開をアンインストールすることで終了します。

DocAve 6 に完全に切り替わったら、v6 プランにアクセスし、DocAve 6 で提供されている新機能を使用す ることができます。例えば VSS を使用したアップグレード済みのプラットフォーム バックアップ プランであれば、アッ プグレード中に自動選択されていた既定の設定をプラン内で変更することができます。自動選択された既定の 設定には、**スナップショット保持ポリシー** や **連続スナップショット** などが含まれます。

DocAve 6 のすべての新機能については、<u>www.avepoint.co.jp</u> を参照し、新しい DocAve 6 環境を 利用する際にご活用ください。

通知

この発行に含まれている資料はAvePoint, Incに所有または提供され、AvePoint およびそのライセンス提供会社のプロ パティであり、著作権、登録商標ならびに他の知的所有権に関する法律によって保護されています。この発行内の登録 商標または著作権はいずれも削除または変更することができません。

著作権

Copyright © 2012-2013 AvePoint Japan K.K. All rights reserved. 本書の著作権は AvePoint Japan 株式会社に帰属します。本書に掲載されている情報はすべて日本著作権法において保護されており、内容の無断複製、更新、転載を禁じます。本書のいかなる部分、いかなる書式および電子通信、機械的送信、複写、記録などのいかなる方法、あるいは AvePoint Japan 株式会社 (〒 108-0075 東京都港区港南 2 丁目 4-15 品川サンケイビル 2 階)、ならびに本書に掲載する情報がサード パーティに所有される場合サード パーティによる事前の文書による許諾なしに複製、保存、送信を禁じます。

登録商標

AvePoint[®]、DocAve[®]、AvePoint ロゴおよび AvePoint ピラミッド ロゴは AvePoint Japan 株式会社による日本 特許庁登録済みの商標です。これらの登録商標および本書に使用されている他の商標はすべて AvePoint の専有プロ パティであり、文書による許諾なしには使用できません。

Microsoft、MS-DOS、Internet Explorer、Microsoft Office SharePoint Servers 2007/2010/2013、Sh arePoint Portal Server 2003、Windows SharePoint Services、Windows SQL server、および Window s はマイクロソフト株式会社の商標または登録商標です。

Adobe Acrobat、および Acrobat Reader は Adobe Systems, Inc の商標です。

その他本書に掲載されている商標はすべて該当の所有者のプロパティであり、許諾なしに使用することを禁じます。

変更

本書は情報の提供のみを目的とし、通知なしに変更または更新される場合があります。当社では最新、そして正確な情報を提供するよう努力しておりますが、あらゆるコンテンツの誤りもしくは脱落に起因する間接的、派生的に生じた損害に対し、一切の責任を負わないものとします。当社は、ユーザーに対し予告、通知をすることなく記載内容を変更する権利 を所有します。

AvePoint Japan 株式会社 〒 108-0074 東京都港区高輪 4 丁目 10-18 京急第一ビル 11 階